



NPO法人
子どもセンター「パオ」

Newsletter

vol.25

新年のご挨拶 ●
寺子屋開設報告 ●
全国シェルターネット会議報告 ●



新年の挨拶

事務局長 高橋直紹

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は私たち子どもセンター「パオ」に多大なご支援を賜りありがとうございました。パオがこうして何とかやって来られたのも、みなさまの温かい、そして力強い応援があったからこそだと、ただただ感謝の念でいっぱいです。

今年パオは9周年を迎えます（7月には記念イベントを行う予定です）。平成18年12月全国2番目の子どもシェルターのためのNPO法人を立ち上げ、翌19年4月からは子どもシェルター「丘のいえ」を開設しました。まだ、当時は子どもシェルターは自立援助ホームの一類型とは認められておらず、公的な援助はほとんどありませんでした。

子どもシェルターから次のステップに旅立つ子どもをパートナー弁護士はその後も支援するのですが、パオに来るまでに受けた心の傷が余りに深く、働く意思はあっても実際に働けずドロップアウトしてしまう子どももいました。そんな子どもたちを見て、もう少し時間を掛けて心の傷を癒し生きるパワーと自信をもってもらえる場所があるのではないかと考え、平成23年11月、ステップハウス（子どもシェルターと自立援助ホームの中間的な施設）「ぴあ・かもみーる」を開設しました。作り始めるときは、子どもシェルターにも自立援助ホームにも属しないので、公的な援助は受けられないだろうと思っていました（結果的には、自立援助ホーム

として認められました）。平成26年9月からは今までよりも大きな空間に移転しました。

そして、今回のニュースレターにも報告されていますが、平成26年11月には、子どもたちが遊びや関心のあることをきっかけに、やる気と自信をつけてもらうための空間「寺子屋」が完成しました。

この間、全国でも子どもシェルターを立ち上げる動きが活発になり、全国で10カ所前後の子どもシェルターができています。全国に広がるといいなと思います。

実は、パオはステップハウス開設とともに子どもシェルターを休止しています。今までのパオの活動をみたと、他の子どもシェルターを運営するNPO等から見ると道草ばかり食っているようにみえます（これも、財政的なことや先のことをなあんにも考えない事務局長と子どもことだけに興味がある理事長の組み合わせがなせる技です）。

でも、子どもシェルターを休止した3年間で子どもシェルターの重要性・必要性も再認識することができました。今年は、是非とも子どもシェルター「丘のいえ」を再開したいと思っています（また事務局長が暴走している・・・）。

みなさま、今年もなお一層のご支援をお願い申し上げます。